

東京学芸大学 vs 日本大学

5月25日(日)
11:30K.O.
産能大G

なかなか上昇気流に乗れない東学大と、下位に低迷する日大との対戦。特に日大は最下位とも勝点1差とお尻に火がついてきた。初戦以来の勝利が欲しい。

東学大は前節、産能大と1-1で引き分けた。シュート数は13-5と圧倒したものの、決め切れないシーンも多く、引き分け止まり。連勝中の産能大に前半は主導権を与えてしまい、25分に先制を許す。「1対1の対応が少し甘かった。先に失点して難しい状況になった」(檜山康監督)。後半は中盤で先手を取ってチャンスも数多く作ったが、85分によやく相手陣内でボールを奪って追い付くにとどまった。「(後半は)相手のカウンターにエネルギーを消耗した。その分を攻撃にかけられればよかった」(檜山監督)。今節も下位チームとの対戦だが、受け身にならず、主導権を握ってしっかりと攻撃を組み立てたい。

対する日大は開幕戦以降勝利がなく、前節は最下位・平国大と対戦するも0-2で敗れてしまった。スタメン構成を含めて試行錯誤が続いている。その前の試合で4得点を記録しただけに、波に乗りたところだったが、またも得点力不足という課題を露呈してしまった。「ペースをつかんだ時間もあるが、得点できない試合が続い

ている」(川津博一監督)。下位争い、そしてグラウンド状況もあり、お互いに蹴り合いの様相を呈してしまった平国大戦はPKとアディショナルタイムでの失点だけに守備を崩された印象ではない。しかし、今節はDFラインに出場停止者を抱え苦難は続く。何としてもこの苦境を抜け出したいところ。

<出場停止>高橋秀宜(日大):3回警告/永井雄介(東学大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		日大	
2. 吉田	5. 鈴木	14. 成瀬	25. 大谷
3. 久司	11. 五十嵐	43. 高山	
8. 菅			
14. 平田	7. 廣田	3. 奥村	
4. 脇本	18. 久保	13. 中野	8. 床井
5. 廣木	10. 佐々木	36. 川島	

1. 須賀

1. 谷

拓殖大学 vs 産業能率大学

5月25日(日)
13:50K.O.
産能大G

8位ながら、4位にも勝る4勝を挙げている拓大と、ここ3試合は負けなしの産能大という、上昇傾向にあるチーム同士の興味深い対戦。

拓大は前節、東農大に1-0で勝利した。連勝が止まった後の大事な試合だったが、シュート数は少ないながらも虎の子の1点を守り切り、貴重な勝点3をモノにした。「先週の出来が良くなかったので、気持ちをしっかり入れて欲しかった。早い時間に点が取れて楽になった」(玉井朗監督)。グラウンド状況の影響もあってボールが落ち着かず攻撃には苦勞したが、17分にシュートのこぼれ球をMF菅能将也(4年)が押し込み先制。逆に守備での踏ん張りが目立ち、「DFが頑張った。CB2枚がよく跳ね返してくれた」(玉井監督)。順位は8位ながら、上位と勝点差は少ない。産能大も得点力があるだけに、引き続き守備面にも注力したい。

その産能大は前節、東学大と1-1で引き分けた。それでも3試合負けなしで、地道に勝点を伸ばしている。東学大戦は、数字的に見れば相手に3倍近いシュートを打たれながらも引き分けに持ち込んだという印象だが、同点ゴールを許したのが85分だっただけに、ややもったいない展開でもあった。加藤望監督も、「頑張り切れ

ない、勝ち切れない部分に力の無さを感じた」と話した。しかし、わずかな残り時間も勝ち越しを目指して攻めたことは、十分産能大らしいチームカラーを表現していたと言える。失点数はリーグ最多だが、得点数は拓大を上回っており、前節のように前半から主導権を握っていききたい。

<3回警告>谷川貴也・多田和明(拓大)、楠元秀真・須永亨(産能大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

拓大		産能大	
26. 新山	17. 岡村	25. 渡辺	
16. 大森		4. 楠元	
13. 三浦	36. 須永		
15. 谷之口	37. 見留	31. 安田	
27. 森川	34. 越智	7. 小池	
8. 菅能	7. 小池	6. 遠藤	
6. 紙谷			
24. 多田	12. 齋藤	32. 上長	
2. 谷川			

21. 佐川

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.10

編集:五味亜矢子 発行:(一財)関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



神大・法大初黒星、平国大は初白星!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2 部リーグの前期は、いよいよ大詰めとなってきた。第 9 節は、ここまで無敗を記録してきた首位の神大と 3 位の法大が、それぞれ東洋大に 0-1、関学大に 1-2 とそろって今季初黒星を喫し、逆に未勝利だった平国大が日大を 2-0 で破り今季初勝利を挙げた。また、青学大が日体大に 2-0 で、拓大が東農大に 1-0 と完封勝利を飾り、東学大と産能大の試合は 1-1 で引き分けた。

この結果、上位 2 チームがやや抜け出し、東洋大が 3 位に躍り出たが、3 位以下は勝点 2 差に 6 チームがひしめく混戦状態となっている。今節は上位同士・下位同士の興味深い対決が多く、またも順

得点ランキング		アシストランキング	
7: 星子 直哉 (平国大)		4: 伊東 純也 (神大)	
6: 中村 瞬 (関学大)		萱沼 優聖 (関学大)	
5: 萱沼 優聖 (関学大)		上長 次郎 (産能大)	
岡村 洋也 (産能大)		3: 全 9 名	
中野 春樹 (日大)			
4: 高木 利弥 (神大)			
伊東 純也 (神大)			
木村 魁人 (関学大)			

位変動が起こるかどうかが注目だ。今節終了後は、ミノバイタル杯のため 3 週間の中断を経て、6 月 14・15 日に前期最終節が行われる変則日程となる。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 9 節終了時)

順位	2部	神大	関学大	東洋大	法大	青学大	日体大	東学大	拓大	産能大	東農大	日大	平国大	勝数	負数	分点	得失点差	得失点	勝点
1	神大		6/15	0●1	5/25	2△2	0△0	3○1	4○0	4○0	3○0	1○0	5○3	6	1	22	7	15	20
2	関学大	日体大G		1●2	2○1	1●4	5/25	3○0	2○0	3△3	2○1	4○2	5○0	6	2	1	23	13	19
3	東洋大	1○0	2○1		0●2	5/25	6/15	0●1	0●2	4○0	1○0	0●1	3○2	5	4	0	11	9	15
4	法大	東洋大G	1●2	2○0		2△2	0△0	6/14	3○0	2△2	1○0	4△4	0△0	3	1	5	15	10	14
5	青学大	2△2	4○1	東洋大G	2△2		2○0	0●2	3△3	0●1	6/14	2○1	1△1	3	2	4	16	13	13
6	日体大	0△0	BMWス	日体大G	0△0	0●2		1○0	0●2	4○1	1△1	0△0	2○1	3	2	4	8	7	13
7	東学大	1●3	0●3	1○0	法大G	2○0	0●1		3○0	1△1	0●1	5/25	3○2	4	4	1	11	11	13
8	拓大	0●4	0●2	2○0	0●3	3△3	2○0	0●3		5/25	1○0	2○0	6/14	4	4	1	10	15	-5
9	産能大	0●4	3△3	0●4	2△2	1○0	1●4	1△1	産能大G		0●5	6/14	6○4	2	4	3	14	27	-13
10	東農大	0●3	1●2	0●1	0●1	法大G	1△1	1○0	0●1	5○0		1△1	5/24	2	5	2	9	10	-1
11	日大	0●1	2●4	1○0	4△4	1●2	0△0	産能大G	0●2	産能大G	1△1		0●2	1	5	3	9	16	-7
12	平国大	3●5	0●5	2●3	0△0	1△1	1●2	2●3	産能大G	4●6	千葉東総	2○0		1	6	2	15	25	-10

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

悩むより、走り出そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



RECRUIT

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています*

東京農業大学 vs 平成国際大学

5月24日(土)
11:30K.O.
千葉東総

連敗中の東農大と、ようやく初勝利を挙げた平国大との対戦。勢いも対戦成績も平国大が上回っているが、勝点3差の戦いはどちらに軍配が上がるか。

東農大は前節、拓大に0-1で敗れた。これで3試合連続0-1での敗戦となり、得点力不足が深刻だ。守備面では持ち前の粘り強さも見せているだけに苦しい状況で、接戦を落として順位も10位まで下降してしまった。拓大戦は17分の失点を取り返せないまま終了。守備面では、早い時間帯での失点が続いていることが試合を難しくしてしまっている。「自滅だった。後半はゴール前まで行くシーンもあったが、前半の失点が響いた」(廣本達也コーチ)。シュートが少ないのも課題で、残り10分は猛攻を仕掛けたものの、得点にはつながらなかった。初勝利で意気の上がる平国大が相手だが、先に失点することなく主導権を握れるか。

対する平国大は前節、日大に2-0で勝利した。待ちに待った今季初勝利に、西川誠太監督も「勝てなかった理由に正面から向き合った今週の彼らの頑張りが結果に出たことが一番の収穫だし、自信になると思う」と褒めた。内容が悪い試合ばかりではなかったが、大量失点のゲームが多かっただけに、無失点に抑えたことも一つの

収穫だ。日大戦では、51分にPKで先制、後半アディショナルタイムに追加点を奪った。「リードしていてもバタバタするシーンがあったし、もっと人数をかけて攻撃したい。課題は多い」(西川監督)。先制のあと、勝てていない焦りからか守りに入って劣勢を招いた部分もあるが、引き続き守備面では集中力を保ちたい。
<3回警告>金裕志(東農大)、小松崎雄太(平国大)
<昨年の対戦>前期/東農大1-3平国大、後期/東農大0-1平国大

東農大		平国大	
3. 加藤	11. 井上	7. 柏俣	11. 千葉
5. 櫻岡	25. 金	26. 小松崎	2. 増田
1. 矢口	14. 石川	9. 星子	5. 鎌田
	9. 相川	32. 増田	1. 荒川
	7. 和気		17. 尾林
15. 小田原			2. 増田
	8. 佐々木	34. 押山	
17. 徳田			33. 平野

神奈川大学 vs 法政大学

5月25日(日)
11:30K.O.
東洋大G

1位と4位の対戦だが、両チームとも前節で今季初黒星を喫した。どちらも連敗は避けたいだけに、激しいゲームが予想される。

1位の神大だが、前節は東洋大に0-1で敗れた。ここまで無敗で、第7節までに22得点という攻撃力を誇ってきたが、ここ2試合は無得点だ。首位チームに対する戦い方の徹底により、攻撃が封じられるケースが多くなった。第8節で日体大に今季初の無得点に抑えられたことから、東洋大に対しても固い守備を崩すべく攻めたが、「自分たちの形をある程度つくれたが、決め切れず非常に残念。得点することをもっと意識してプレーしてほしい」(松永道敬総監督)。後半は積極的な攻撃に出てきた東洋大の前にシュートを打てず、逆に自陣でのミスから1点を許した。攻撃陣に対する相手のマークは今後も予想できるだけに、厚い守備を崩す対策が必要だ。

一方の法大は前節、順位が一つ上の関学大に1-2と痛い逆転負けを喫した。3位につけてはいたものの、4試合連続引き分けと勝ち切れなかったところでの初黒星のショックは計り知れないが、長山一也監督が「課題としてきたことは修正できたし、ゲーム運びも考えながらできていた」と話したように、試合内容は安定感があつ

た。しかし、同点に追い付かれて前がかりになったところで相手のカウンターに合い、一瞬の勝負に敗れた。「(初めて)負けてスッキリして、次につなげればいい」(長山監督)。組織的な守備の質も高まりつつあるが、前半に関しては慎重になり過ぎた感もあるだけに、持ち前の攻撃力を存分に発揮したい。

<3回警告>南祥巧(神大)、西室隆規・青島拓馬(法大)
<昨年の対戦>前期/神大1-2法大、後期/神大4-2法大

神大		法大	
3. 高木	11. 星	8. 三田	6. 星
4. 藤原	23. 西田	9. 相馬	3. 宗近
16. 武田		25. 西室	
12. 黒沢			21. 富澤
	6. 前田		5. 山口
5. 杉山	24. 鈴木	4. 清水	27. 山田
	10. 伊東	16. 青島	
7. 長野			32. 川崎

日本体育大学 vs 関東学院大学

5月25日(日)
11:30K.O.
BMWス

5位に後退した日体大と、2位の関学大との対戦。首位逆転も狙う関学大に対し、日体大はなかなか波に乗れない。これ以上昇格ラインから離されたくない日体大が、意地を見せられるか。

その日体大だが、前節は青学大に0-2で敗れた。2試合連続無得点と得点力不足に悩まされており、いつの間にか得点数はリーグワーストとなってしまった。一方で失点数は神大と並ぶリーグ最少だが、DF広瀬健太(4年)に続きGK伊藤幹人(3年)も負傷により戦線離脱し、非常事態に陥っている。青学大戦は、立ち上がりPKを得たものの得点につながらず、波に乗るチャンスを自ら逃した。「決定的なチャンスを決められないと流れが悪くなる、サッカーの怖さの典型的な試合。結局はミスから失点につながった」(倉又寿雄監督)。攻撃については点が欲しいという焦りが見られたが、まずは2位チームの攻撃を抑えて攻撃のチャンスを伺いたい。

一方の関学大は前節、3位の法大と対戦し、2-1と逆転勝利を飾った。前半はお互いに慎重な試合運びとなり、後半は中盤をつぶし合って激しい攻防に。CKの流れから先に失点したが、「どこかでチャンスはあると思ったので慌てず、2点目を取られないように気をつけ

た」(石村大監督)というように冷静なプレーが功を奏し、70分に同点。その後は法大に攻め込まれてやや劣勢だったが、77分にカウンターが決まって逆転に成功した。「今年は先制できる形がほとんどだった。逆転という勝ち方ができたのは大きい」(石村監督)。連敗せず、3位を突き放す価値のある1勝を手にした関学大。前期を昇格圏で折り返したい。

<3回警告>阿部潤(日体大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大		関学大	
2. 高野	10. 阿部	11. 中村	32. 木村
13. 増谷	23. 小泉	33. 萱沼	3. 原島
21. 馬場	14. 藤井	10. 土館	1. 井田
	18. 川戸	7. 太田	
	33. 輪笠		
20. 高野		22. 井上	4. 久保
	11. 小山	8. 普光院	
6. 赤平			25. 亀井

東洋大学 vs 青山学院大学

5月25日(日)
13:50K.O.
東洋大G

2連勝チーム同士の対戦。東洋大は今季最高の3位まで順位を上げ、青学大も一時下位に低迷したものの5位まで浮上してきた。前期残り2試合、一気に昇格争いまで手を伸ばせるのはどちらか。

東洋大は前節、首位の神大に1-0で勝利し、今季初黒星をつけた。前半は神大の攻撃力の前に押し込まれて守備に奔走したものの、攻守にメリハリのある戦いをする東洋大だけに、これはある程度想定内の試合展開だったはず。前半は無理をせず失点しない戦い方を心がけ、後半は機を見て攻撃を仕掛けて少ないチャンスを狙ったが、残り10分を切ったところで相手GKからのFKを奪ってゴールにつなげ、プラン通りの勝利を収めた。「前半はいつやられてもおかしくなかった。なかなかこういう試合に耐えきれなかったが、耐えて試合をつくることできていた」(古川毅監督)。堅く守りつつ得点が取られて勝利につながるようになり、安定感が出てきた。

対する青学大は前節、日体大を2-0で下して今季初の連勝を飾った。いきなりPKを与える不安な立ち上がりだったが、GKとDFの好守により失点を防ぐと、徐々に流れを自分たちに引き寄せた。前半終了間際に、相手ゴール前でのパスカットから先制点につなげ、後半も残

り10分を切ったところで追加点を奪う理想的な展開。相手の拙攻に助けられた部分もあるが、今季初めて無失点で乗り切ったことも大きな収穫だ。「PKを決められたら逆の結果もあり得た。課題もあるが、0点で抑えて結果がついてきたのが大きい」(宮崎純一監督)。守備の粘り強さが光った試合だったが、今節は東洋大のチェンジオブペースにしっかり対応していきたい。

<3回警告>小山大貴(東洋大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大		青学大	
24. 池田	10. 平石	7. 荒木	2. 堤
5. 田口	15. 小山		5. 京谷
	7. 齊藤	14. 伊藤	
1. 浅沼	18. 遊馬	27. 角宮	1. 高橋
	13. 郡司	10. 関谷	
4. 郡司		33. 山田	3. 御牧
	28. 仙頭		
16. 石坂		11. 恵	17. 諸井